

東海産業競争力協議会 TOKAI VISIONについて

平成27年7月6日
中部経済産業局総務企画部長
藪内 雅幸

東海産業競争力協議会の概要

- ◆ 日本再興戦略(平成25年6月)を受け設置。地域毎の戦略産業を特定し、地域に眠る地域資源の発掘・活用を通じた地域経済の活性化、地域産業の競争力強化戦略を定め、産学官金等地域の総力を挙げた取組を推進。

(1)協議会委員構成

座長:松尾 清一 国立大学法人名古屋大学総長

自治体:長野県知事、岐阜県知事、静岡県知事、愛知県知事、三重県知事、静岡市長、浜松市長、名古屋市長

経済界:中部経済連合会会長、名古屋商工会議所会頭

オブザーバー:東海総合通信局長、東海財務局長、東海北陸厚生局長、愛知労働局長、東海農政局長、中部経済

産業局長、中部地方整備局長、中部運輸局長、 他

(2)WGの構成

地域中小企業経営者(企業経営者13名)、自治体、大学から構成する作業部会(WG)を設置し、東海地域の競争力強化の具体策を議論

(3)これまでの開催結果

平成25年11月28日 第1回協議会

平成25年12月24日 第1回作業部会[WG]

平成26年 1月30日 第2回作業部会[WG]

平成26年 2月25日 第3回作業部会[WG]

平成26年 3月12日 第2回協議会(TOKAI VISION策定)

平成26年 7月 9日 第4回作業部会[WG](アクションプラン策定)

平成27年 2月 6日 第5回作業部会[WG](フォローアップ実施)

平成27年 4月23日 第3回協議会(フォローアップ実施、NEXT ACTIONの提示)



I 戦略産業の強化

※括弧書き【 】は当地域のヒックス

《自動車関連産業》

- ✓ 「東海北陸連携コンポジットハイウェイ構想」スタート
- ✓ 新素材利用等の研究開発プロジェクトの組成や競争的資金獲得支援の実施
- ✓ 充電インフラ・水素供給インフラ整備の推進
- ✓ 技術開発動向セミナー、完成車メーカーへの提案・商談会の開催、各種展示会への出展支援の実施
- ✓ 海外の展示会への出展支援、商談会、ミッション派遣等の実施

《航空機産業》

- ✓ 人材確保・定着・育成用のカリキュラム等の教育プログラムを開発
- ✓ ミクラスター(4地域)の一貫体制構築の支援や、国際商談会の開催
- ✓ 国内装備品メーカーの技術ニーズを開示する逆見本市形式の商談会の開催や、海外装備品メーカー誘致に向けたミッションの派遣
- ✓ 新規参入企業に対する国際認証取得支援の実施

《ヘルスケア産業》

- ✓ 医療機器産業育成に向けた専門家による相談対応やプロジェクト組成のコーディネート等の支援を実施
- ✓ 東京の専門医療メーカーとの商談会の開催
- ✓ 福祉デバイス等サービス分野に係る7つの研究会を新たに組成、フォーラムを開催しての事例発表も実施

《環境産業》

- ✓ 環境技術の研究開発・技術高度化のための研究開発に係る産学連携マッチング会、技術開発と市場拡大に係る企業間シーズ・ニーズ発表会を開催
- ✓ 海外への環境技術普及に係るミッション派遣の実施

取組

成果・効果

- コンポジットハイウェイ構想において炭素繊維複合材に関する東海北陸の大学、公設試と260社の産学連携ネットワークが形成
- サホインや各自治体の補助金等競争的資金を獲得
- 充電インフラは国補助活用整備が5県計で960以上進展。商用水素スタンは5箇所商用開始
- 【2014年12月：燃料電池車市販開始】
- 完成車メーカーに対する商談会で計123件の商談を実施、金型等部品加工展示会で計20件の商談が実現
- ミッション派遣により海外州政府とMOU締結に至った例あり

- 我が国初となる航空機業界標準の生産技能者育成用カリキュラム・テキストを作成
- 飯田地域(ミクラスター)に不足していた特殊工程を行うための貸工場が完成
- 逆見本市形式の商談会で全国20社の中小企業とのマッチングが実現
- 国際認証取得支援を受けた延べ23社が新規に認証取得や社内体制を強化
- 【2014年10月：MRJがロールアウト】

- 内視鏡手術用具開発等のプロジェクトを実施する15件の研究会を組成
- 東京の専門医療メーカーとの商談会では100社超が来場し面談を実施
- フォーラムでの事例発表を機に、医療系ファンド会社との出資提携が進行中

- 環境ビジネスに関するセミナー、マッチング会の開催を通じて、プラスマ、セラミックスに関する分科会を組成。両分科会から4テーマの研究チーム組成見込み
- 大企業の技術ニーズに対し、複数案件で継続協議中
- ベトナムミッションでは74件の商談が実現、うち11件が成約の見込み

取組

成果・効果

II ものづくりマザー機能

- ✓ サホイン採択事業の展示商談会、みえリーディング産業展での個別商談会などを開催
- ✓ 「炭素繊維複合材分野における技術シーズ集」を作成。産業支援機関によるコーディネート活動も実施
- ✓ 次世代自動車地域産学官フォーラムのコーディネーターによる中小企業技術ニーズ調査を実施

- サホインの商談会では延べ72件の商談を実施。三重の商談会(商談数60件)では2件が成約、39件が商談継続中
- 愛知県の支援機関ではコーディネーターを2名増員して研究成果の事業化やコーディネート活動を強化、外部資金採択は45件の実績
- 中小企業の技術ニーズを踏まえ「地域オープンイノベーション促進事業」で各県公設試に先進的な試験評価設備を整備

IV 事業環境の整備

取組

- ✓ 信用金庫と連携し中小企業とOB人材のマッチング(7回)を実施
- ✓ 県内企業等における女性の活躍に向けた取組を促すため「女性の活躍促進宣言」の募集を開始
- ✓ 地域の中堅・中小企業の利用のため大学・公設試への最新機器導入を支援
- ✓ 道路・港湾等インフラ整備を着実に実現、安定的な投資の継続【2014年12月：リニア中央新幹線着工】

成果・効果

- 中小企業とOB人材のマッチングで約6割のマッチングが成立
- 「女性の活躍促進宣言」企業数(愛知県内)114社(3月末現在)
- 大学・公設試における最新機器の利用件数 256件(3月末現在)
- 沿線県を中心に、リア活用戦略を着実に進めるための体制を構築

V 国際化戦略

- ✓ タイ工業省、インド・カルナータカ州、アメリカ・ワシントン州、アメリカ・ホーキング社等へトップセールスを実施
- ✓ 海外ミッション派遣によるビジネスマッチング、航空機分野など先端企業との商談会を開催
- ✓ 海外の旅行会社を招聘し、昇龍道地域のPRを実施
- ✓ GNIへ商社・金融機関が参画し機能強化

- 愛知県とタイ工業省、三重県とインド・カルナータカ州、アメリカ・ワシントン州との経済連携覚書締結、ホーキング社と長野県内企業の面談を実現
- 海外ミッションによりキーパーソンの発掘、ネットワーク強化を実現。GNI関連では、ビジネスマッチング(タイ34件)や商談会(スイス14件、独19件)の結果、29件が継続コンタクト中
- 台湾、香港で昇龍道地域の旅行商品が企画され販売開始
- GNIに商社・金融機関等が参画する産業戦略部会を3月に新設。より企業ニーズに沿った海外ミッションの企画を検討中

III 地域資源の活用

取組

- 【自治体】
- ✓ 農林水産資源や観光資源等を活用した特徴的なプロジェクトを実施
- 【広域連携プロジェクト】
- ✓ 「昇龍道プロジェクト」と連携して商店街(大須・高山・伊勢)を活用した地域資源の魅力向上のため、英文リーフレットや英文ウェブサイトの作成、外国人へのアンケート等を実施
- ✓ 日本銘酒街道ガイドマップ作成(119の酒蔵を掲載)と酒蔵と陶磁器事業者との連携(酒器のサンプル提供等)を実施
- 【地域活性化サイクルの展開】
- ✓ 瀬戸市・南伊勢町へ販路開拓等のキーパーソンを派遣
- ✓ キーパーソンのネットワークを使った大手百貨店7社との地域資源等認定商品のマッチングを実施

成果・効果

- NAGANOモビリティ、関ヶ原古戦場、富士山、なごやめし、みえ旅パスポート、三遠南信等の推進により、東海地域の魅力が高まり、外国人宿泊者数が増加傾向
- 地域資源の魅力向上に関する約1,200人の外国人へのアンケートの結果、買い物、飲食のニーズが高く商店街との連携の重要性を確認
- 昇龍道地域の酒蔵が陶磁器の活用を検討中。また作成したガイドマップを旅行会社が旅行商品開発に活用
- キーパーソンの助言により大消費地かつ情報発信地の東京で開催した「瀬戸焼ブランド発表会」は、36社のメディアが取材、大手百貨店と商談実施中
- キーパーソンの仲介による大手百貨店とのマッチングの結果、12社が本口座を開設

TOKAI VISIONに基づく広域ACTIONの進展

【「世界最強のものづくり先進地域」を目指して】

<戦略産業の推進>

- 燃料電池車（FCV）、自動運転、高度道路交通システム（ITS）など次世代の自動車関連技術の開発力強化及びインフラ整備
- 炭素繊維複合材（CFRP）の開発・生産から航空機・自動車への適用まで、北陸（川上）・東海（川下）連携による世界規模の産業集積の形成（東海・北陸コンポジットハイウェイ構想）
- MRJ（国産初の小型ジェット旅客機）を始めとした航空機のアジアNo.1クラスター（松阪、小牧、各務原、飯田等地区の一貫生産体制の構築）
- 東海5県の地域支援機関による強固な連携を構築し、改良型医療機器等の開発、製造を促進

<ものづくり産業の推進>

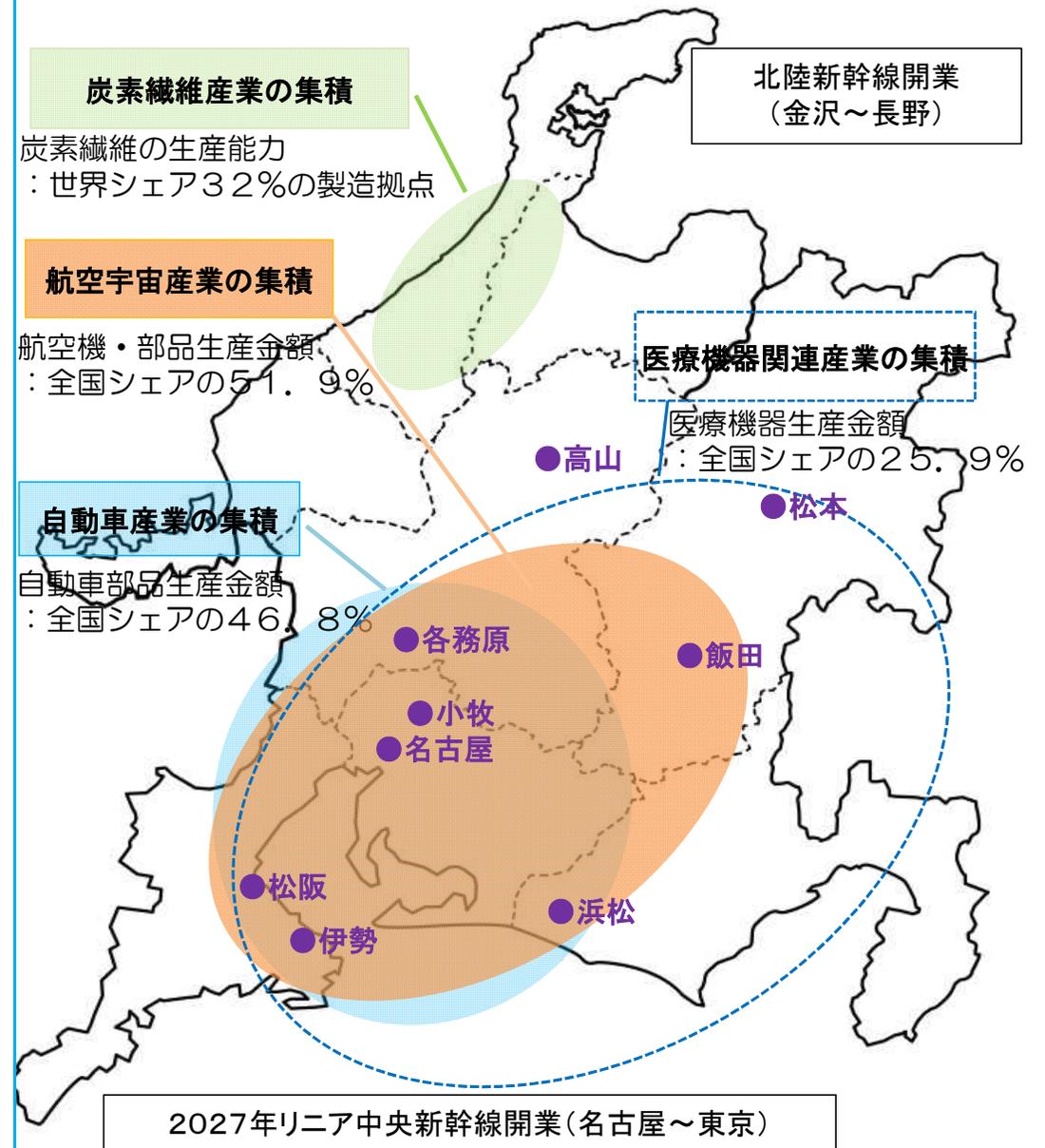
- 自動車分野等で培われた技術をベースに航空機や医療機器など他分野へ展開

<地域資源の活用>

- 名古屋、高山、伊勢などの広域連携による、地域資源を活かした観光振興と商店街活性化（東海から北陸にかかる観光地域「昇龍道」×魅力ある「商店街」）
- 昇龍道エリアの酒蔵と酒器（陶磁器）を組合せた観光ルートによるインバウンド観光の仕掛けづくり

<事業環境整備：産業防災・減災>

- 地域連携BCPの広域展開

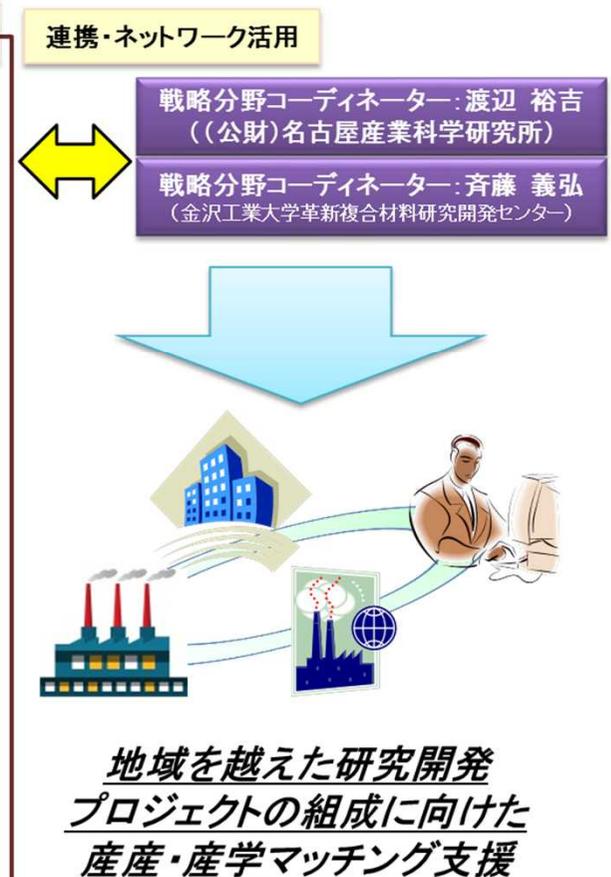


自動車関連産業を中核とした世界規模の産業集積

広域ACTIONの進展（補足資料）

東海北陸連携コンポジットハイウェイ構想

- 中核となる研究開発拠点(名古屋大学NCC、岐阜大学GCC、金沢工業大学ICC)が、地域公設試等の協力を得ながら、炭素繊維複合材に対して産業界が求める多様なニーズに応える研究開発・人材育成のプラットフォームとなる場を提供(“コンポジットハイウェイコンソーシアム”の組成)
- 人(研究者等)や情報(シーズやニーズ)が行き交う連携・交流を活発にすることで、研究開発・人材育成の一層の加速化を図り、複合材料に関する研究開発から生産・加工・組立までを行う世界に冠たる一大拠点・産業集積の形成を目指す。



「昇龍道」地域資源の魅力向上プロジェクト

『観光×商店街』というこれまでにない組み合わせで、観光プロモーション(「昇龍道プロジェクト」)によるインバウンド客の呼び込みとタイアップし、新たな需要創出と消費拡大を図るプロジェクト。商店街そのものを地域資源として、これらをネットワーク化。その上で、外国人客をターゲットに、地域資源を活用した地場産品・サービスを発掘し、磨き、有機的につなぎ、地域での消費を促進していく。

実施期間:2014年度～2018年度

推進主体(2014年度):(一社)地域問題研究所、(公財)中部圏社会経済研究所、各観光関連団体、商工関連団体、関係市町村、県・政令市 ほか

<取組の概要>

■「昇龍道おもてなしキャンペーン」の実施

- ・店舗毎の特典やセールスポイントを紹介する3地域共同の英文リーフレットと英文ウェブサイトを作成。
- ・3地域への来訪外国人からのアンケート回収、海外インターネット調査、事業参画店舗へのヒアリングにより、インバウンド需要を取り込むための外国人客の傾向を把握・分析し、受入側の課題などを抽出・整理。

■商店街巡りツアーの実施

- ・3地域において、それぞれの商店街を含むエリアを案内しながら回遊し、外国人にとって観光の新たな魅力発見の機会提供となるような、体験・消費型の「SHOTENGAI-Tourism(仮称)」(商店街観光)のモデル化に向けた試行的ツアーを実施。

目指す成果

「インバウンド向け『世界トップレベルのおもてなし地域』の実現」

- ・名古屋(大須ほか)、高山、伊勢・鳥羽・志摩の連携から拡大し、都市間ネットワークを構築しつつ、各地の商店街／市街地をインバウンドの拠点化
- ・自治体、観光業、商業、サービス業等幅広い関連事業者による街ぐるみの受入環境・体制整備
- ・リピーター獲得による消費拡大・関連産業活性化・雇用拡大の発展モデル(PDCA)

・プロジェクト参画事業者数

→ 2018年度:450社

・外国人来訪者満足度

→ 2018年度:80%

・東海5県の外国人宿泊客数

2013年度:275万人

→ 2018年度:490万人



「昇龍道」日本銘酒街道における「酒蔵ツーリズム®」の推進

昇龍道地域に多数所在する酒蔵の知名度の向上と観光資源としての「酒蔵ツーリズム®」の推進により、訪日外国人を含む観光客の増加を図り、併せて日本酒への親しみ・理解を深めることにより、販売の増加、輸出の促進を図る。

- <構成員> 約130団体(2014年4月末時点)
 - ・酒蔵関係者(酒造組合、酒造事業者等) / 観光、交通事業者(観光団体、旅行者、ホテル業者、航空事業者、鉄道事業者、バス事業者、タクシー事業者等) / 経済団体等(経済連合会、商工会議所、JETRO、NEXCO等) / 行政機関(国、県、市)
- 実施期間(目標年次): 2020年頃
- 支援機関: 運輸局、経産局等

目指す成果

「昇龍道」地域訪日外国人: 600万人泊

<取組の概要>

- ①「昇龍道日本銘酒街道推進会議」の立ち上げ
- ②「昇龍道日本銘酒街道ガイドマップ(仮称)」作成、酒蔵情報の発信
- ③「日本銘酒街道巡り」等の旅行商品の造成
- ④国内外へのプロモーション
 - ・セントレア、ホテル、百貨店等における販売プロモーション
 - ・その他、海外旅行会社、テレビ局、ブロガー等の招致、海外派遣ミッションへの参画
- ⑤陶芸関係者等異種業種との連携
- ⑥JETROと連携した輸出の促進
- ⑦海外(アルザスワイン街道等)との提携



<スケジュール> 2014 2015 2016 2017 2020頃

「昇龍道日本銘酒街道推進会議」の立ち上げ
「ガイドマップ(仮称)」の作成、セントレア展示会

国内外へのプロモーション
旅行商品の造成

「昇龍道」地域のインバウンドの促進

地域連携BCP ～災害に強いものづくり中部の構築を目指して～

産業防災・減災という共通の目的のもと、一企業の枠を超え、地域・業界等のグループ単位で事業継続力強化を図る「地域連携BCP」を普及し、災害に強いものづくり中部の構築を目指す。中核的な企業群を有する地域、ポテンシャルの高い地域をモデルとして推進。



明海工業団地
(愛知県豊橋市)

霞コンビナート
(三重県四日市市)



尾鷲市地域企業群
(三重県尾鷲市)



明海工業団地

三河湾は完成車輸出第二位、輸入では第一位の港湾。中核となる明海工業団地は、自動車部品製造業が立地し、自動車メーカーと重要なサプライチェーンを形成。

埋め立て地の脆弱性を工業団地として解決するため、津波避難訓練や情報伝達訓練、液状化可能性調査等を実施。

霞コンビナート

化学製品メーカーの集積からなる四日市霞コンビナートは、輸送機械産業から日用品に至るまでの材料供給としてのサプライチェーンを形成。

有事の際の安全・確実な停止に必要な窒素の量の把握と備蓄、早期復旧に向けた点検要員の融通、事業再開目標時期の調整、災害対策本部機能の確立等の検討を進める。

尾鷲市地域企業群

南海トラフ地震が発生した場合、20m以上の津波が短時間で押し寄せることが予想されるなど災害リスクの高い地域。

地域経済と雇用を支える地元企業のBCPの策定と、企業個社では対応が困難な行政アプローチを商工会議所を窓口として検討することで、地域としての競争力強化を図る。

これまでに、地域として想定される被害状況の抽出と被害イメージを地域企業間で共有し、事業継続に向けた問題点を洗い出し、地域連携での対応課題の検討を実施。

2014年度においては、3地域の地域連携BCPの成熟度を高め、周辺地域へ普及を図るべく「地域連携BCP普及セミナー」を開催するとともに、自治体や産業支援機関を念頭に置いた地域連携BCPの策定支援機能の整備に向けた調査・検討を行い、伊勢湾岸地域全体に展開するための戦略の策定を行った。

<セミナー・シンポジウム開催実績>

- ・2014/11/18 会場:尾鷲市民文化会館 参加者数:39名
- ・2014/12/2 会場:四日市港ポートビル 参加者数:69名
- ・2015/2/23 会場:豊橋商工会議所内会議室、2015/3/23(シンポジウム) 会場:名古屋栄ビルディング 参加者数:125名

○「避難・防御」～「応急・復旧」～「復興」の各段階において、有機的な連携を継続しながら各施策を実施することが重要。

